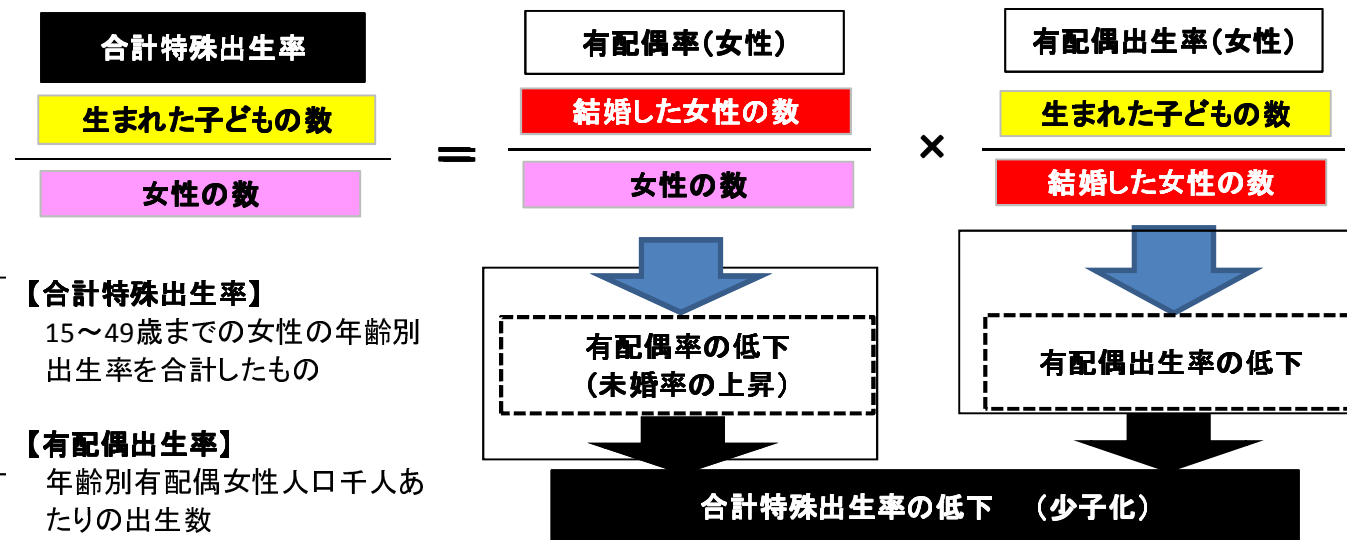


2 少子化に関する現状

(1) 合計特殊出生率に影響を及ぼすもの

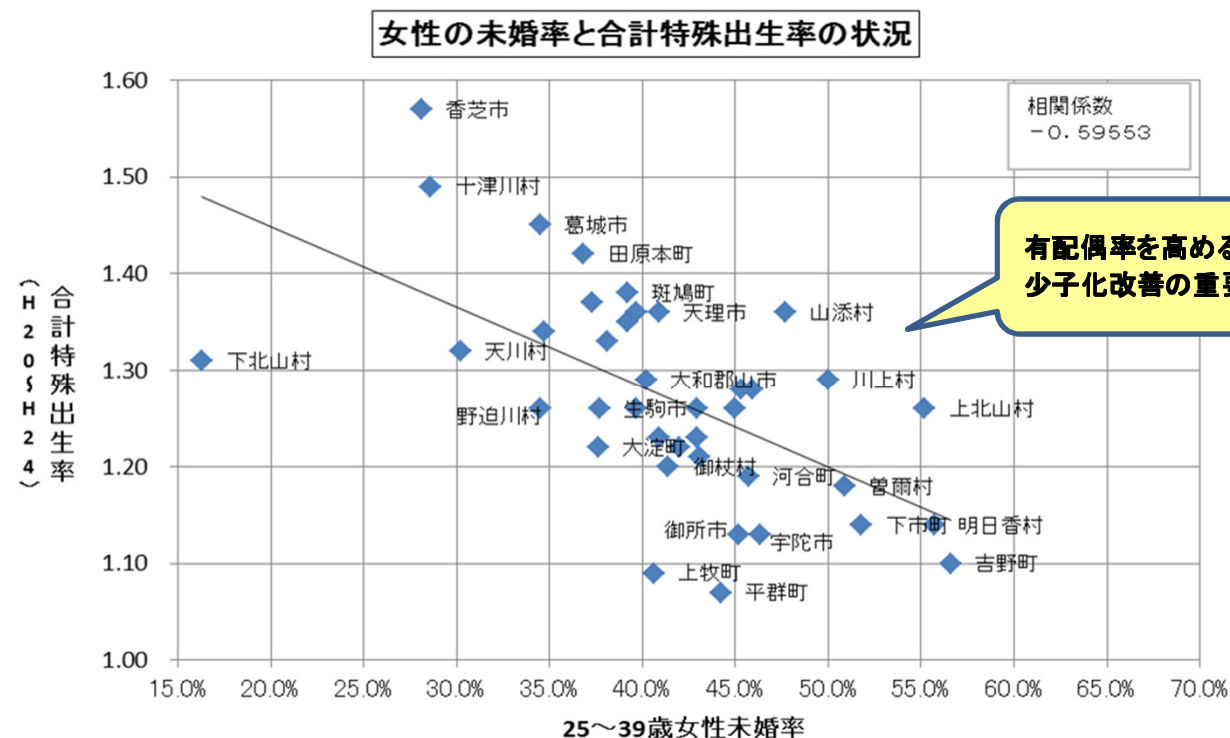
○ 「合計特殊出生率」は、未婚女性も含めたすべての15歳～49歳女性が生涯に生むとされる子どもの数であるため、下図のとおり、「**婚姻率(未婚率)**」と「**有配偶出生率(子どもの数)**」の2つの要素から成る。

(我が国では98%の子どもが結婚している男女から生まれているため、下図は実質的な合計特殊出生率の説明)



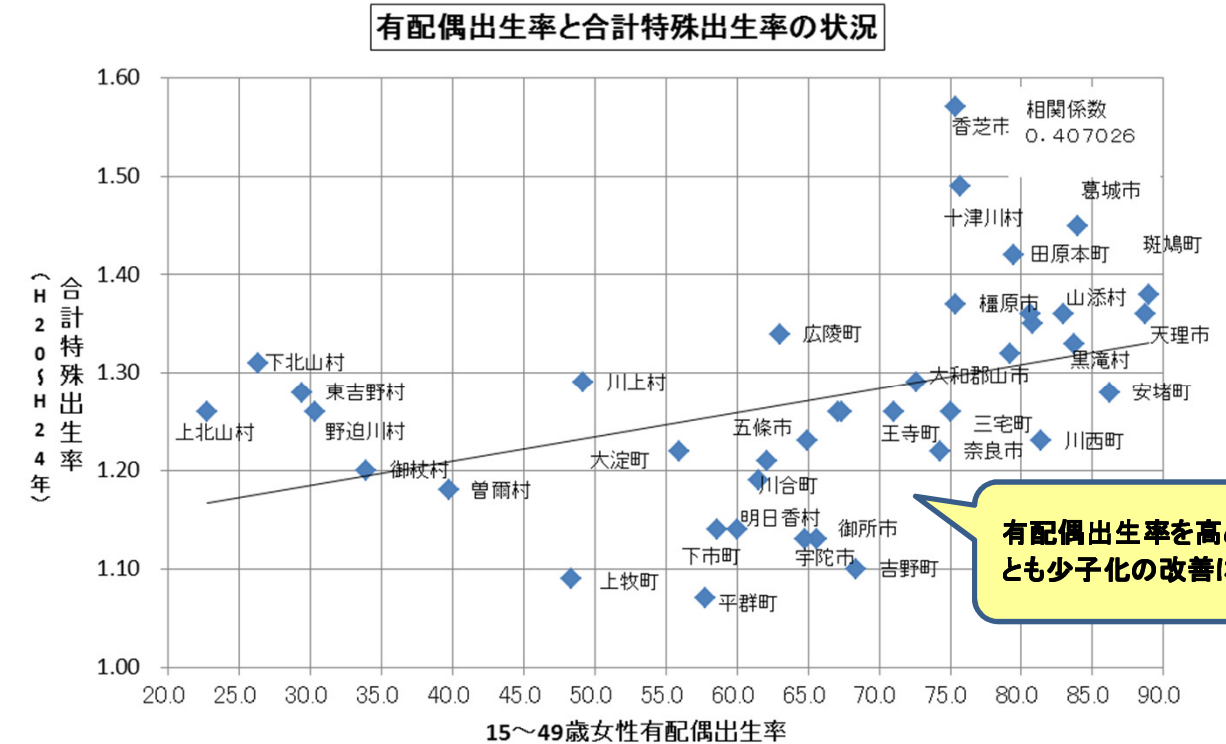
(2) 未婚率と合計特殊出生率(県内市町村)との相関

○ 「**未婚率(25～39歳)**」と**合計特殊出生率**には**相関**がみられ、特に、男性よりも女性の方が相関が強い。



(3) 有配偶出生率と合計特殊出生率(県内市町村)との相関

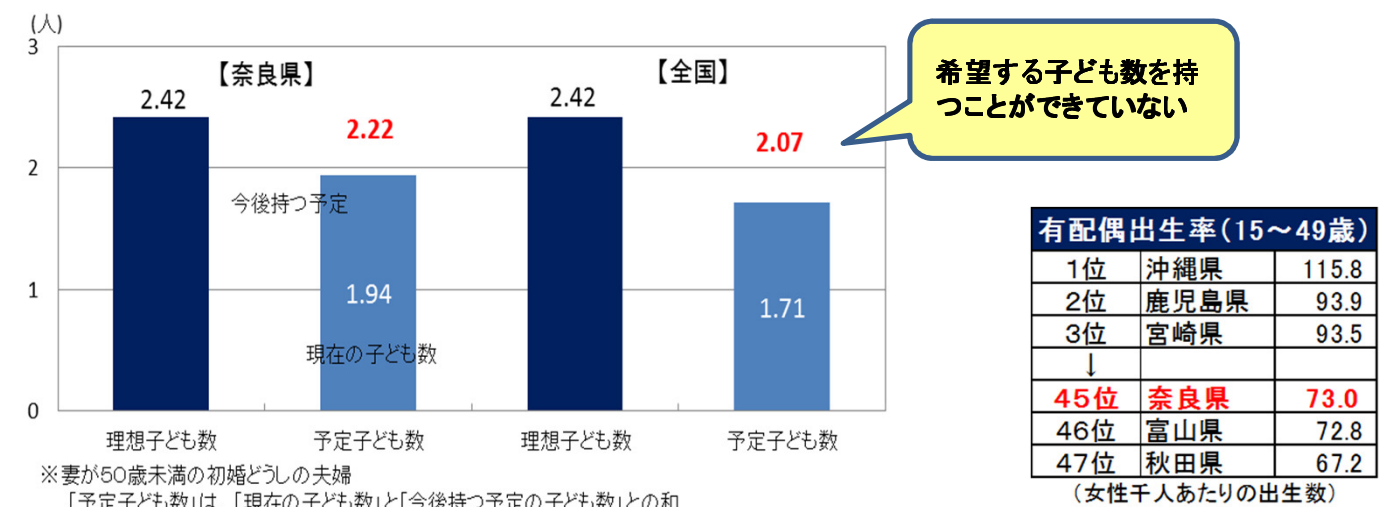
○ 女性(15～49歳)の「**有配偶出生率**」と「**合計特殊出生率**」には、**緩やかな相関**がみられる。



(4) 夫婦の子ども数の「理想」と「予定」の差(奈良県・全国)

○ 「**理想子ども数**」は、奈良県・全国ともに「**2.42人**」だが、「**予定子ども数**」は、奈良県が「**2.22人**」、全国が「**2.07人**」。理想と予定には、差が生じている。「**予定子ども数**」は、奈良県の方が多し。

○ 「**予定子ども数**」が「**理想子ども数**」よりも低い理由は、奈良県・全国ともに、1位が「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」、2位が「高齢で生むのはいやだから」。



【奈良県】平成25年度奈良県子育て実態調査 【全国】第14回(H22)出生動向基本調査(国立社会保障・人口問題研究所)